

降下ばいじん 加古川製鉄所 自主管理目標値 (環境対策効果の予測値)未達成について

1. 降下ばいじん実績について

加古川製鉄所では、2008年4月から粉じん対策の効果を確認するため、降下ばいじんに関して製鉄所影響値 3.0t/km²/月以下 (対象測定地点：加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校の3箇所) の自主管理目標値 (環境対策効果の予測値) を設定し、その達成に注力してまいりました。

各種の降下ばいじん対策を実施し、目標値を下回る実績を挙げてまいりましたが、4月に引き続き5月の加古川神鋼ビルでの測定値が自主管理目標値未達成となりましたので、その内容について以下に報告させていただきます。

地域の皆様には大変ご心配をお掛けし、深くお詫び申し上げます。

<降下ばいじん 製鉄所影響値*1 (加古川市測定) >

測定地点	単位	1月	2月	3月	4月	5月
加古川神鋼ビル	t/km ² /月	0.45	1.43	1.85	3.56	3.82
別府小学校	〃	0.74	0.73	2.23	1.24	2.35
尾上小学校	〃	0.11	0.46	0.23	1.79	1.02

2. 加古川神鋼ビル未達成の原因について

4月度の降下ばいじんを分析した結果、強熱減量が増加していることを確認しました。これは、コークス炉での設備トラブルにより貨車を移動しながらコークスを受けた期間があり、その際に一部の粉じんが集じんフード外に飛散したと考えております。既に、貨車を移動させてコークスを受ける作業時には、集じんフードに加えて散水を実施することで粉じん飛散防止を図っており、その効果も確認しております。

5月度においては、これまでの調査により、過去に実施してきた集塵設備、散水設備等の降下ばいじん対策は維持管理できており、日々のパトロールにおいて設備等の不具合も発生していないことが確認できております。このように特段、異常は認められず自主管理目標値未達成の原因は特定できておりません。

3. 今後の取り組みについて

以上の通り、加古川製鉄所内では顕著な異常は認められておりません。一方で、気象環境では、降雨量、降雨時間が減少しており、特に5月度の降雨量は姫路市気象台で観測史上最少となっています。こうした気象変化が降下ばいじん量の増大に影響を及ぼしている可能性もあります。加古川製鉄所では、こうした気象環境要因の変化も踏まえた上で、対策を講じていきたいと考えています。具体的には以下の2点を進めていきます。

- 1)降下ばいじん対策委員会を発足させ、原因究明と対策の策定を年内を目途に取り纏めます。結果については纏まり次第ご報告させていただきます。
- 2)現在行っている降下ばいじん対策を更に強化すると共に、散水設備の増設や集塵機の増強等の設備投資も実施し足元の降下ばいじん量を少しでも低減できるよう努めていきます。

＜加古川製鉄所長 柴田耕一郎 コメント＞

4月に引き続き、5月も連続して自主管理目標値未達成となったことを重く受け止めております。降下ばいじん対策は、製鉄所の重要課題の一つと位置づけており、降下ばいじん対策委員会を発足させ、原因究明と対策を進めて参ります。こうした取り組みにより、安定して目標値を達成するよう注力致します。

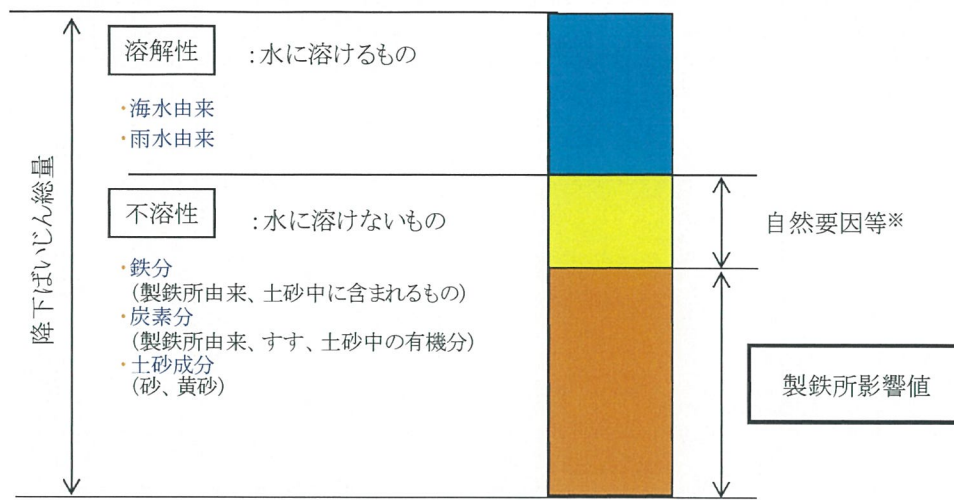
＜関西熱化学(株) 加古川工場長 岡井務 コメント＞

社員一同降下ばいじん対策に努力してまいりましたが、4月度は強熱減量増加が影響し、自主管理値を超過してしまいました。対策は既に実行しており、今後も操業状態の変化に対応し、安定して目標達成できる様に取り組んでまいります。

以上

※1 製鉄所影響値

粉じんの管理を強化するため、製鉄所近隣で加古川市が測定している3ヶ所（加古川神鋼ビル、別府小学校、尾上小学校）の降下ばいじん量について、製鉄所影響値を $3.0\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ 以下とする自主管理目標値を定め、'08年4月から運用しております。製鉄所影響値の算出の考え方を図1に示します。運用開始前の10年間における製鉄所影響値の最大値は $6.6\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ であり、それを半減以下にするという目標です。



※ 自然要因等: 環境監視センター、山手中学校、東神吉小学校、志方公民館、平荘小学校の不溶性降下ばいじん量の平均値。

図1. 目標値を設定する降下ばいじんの対象